



菅波

茂

97.5.28

5月7日から4日間ネパールを訪問した。「AMD Aネパール子ども病院」は現地では「シッタルタ母と子ども病院」と呼ばれていた。なぜか説明する。この病院の建設予定地であるブドワル市から40⁺離れたところにルンビニーがある。ルンビニーはお釈迦さんが生まれた。仏教徒にとっての聖地である。

ちなみにヒンズー教徒にとっても、お釈迦さんは神々の一人である。シッタルタとはお釈迦さんの俗名である。お釈迦さんの母であるマヤーデービーは出産後一週間で死亡している。だから、母と子ども病院なのである。

ブドワル市はカトマンズ峡谷から南に下った平野にある。ネパー

ルの東西南北の交通の要地である。アクセスは抜群である。250万人が対象となる。ネパールでは乳幼児の死亡率が著しく高い。

この病院設立により、恩恵を受ける母と子どもは数は計り知れない。

ネパール子ども病院

この病院は、ネパールの主義主張を超えた超党派で支持されている。豊かな人達も貧しい人達も熱狂的に待ち望んでいる。既に政府も建設予定地の正式譲渡を決定してくれた。

地元で積極的に誘致運動を展開しているのが、ブドワル市商工会議所である。

病院建設による地域経済活性化を望んでいる。実際、病院ができれば薬局、食堂、一般商店などが門前街となって活況を呈すること

はカトマンズ市の病院でも実証済みである。

ブドワル市商工会議所は日本との経済交流を望んでいる。夏になると、商工会議所会頭ミッシンが日本を訪れる。病院建設関係者に対するお礼とともに、経済交流促進のミッションを兼ねている。

「AMD Aネパール子ども病院」のご縁がビジネスへと発展していき、ブドワル市と日本との相互地域活性化へと広がれば、これにまさる喜びはない。ブドワル市には豊かな人もいれば、多くの貧しい人達もいる。一番大切なことは、今日の家族の生活」である。すなわち、食べることである。ビジネスは食べることに直結する。どんなビジネスが具体化するのか、今から楽しみである。

(アジア医師連絡協議会会長・題字は筆者)